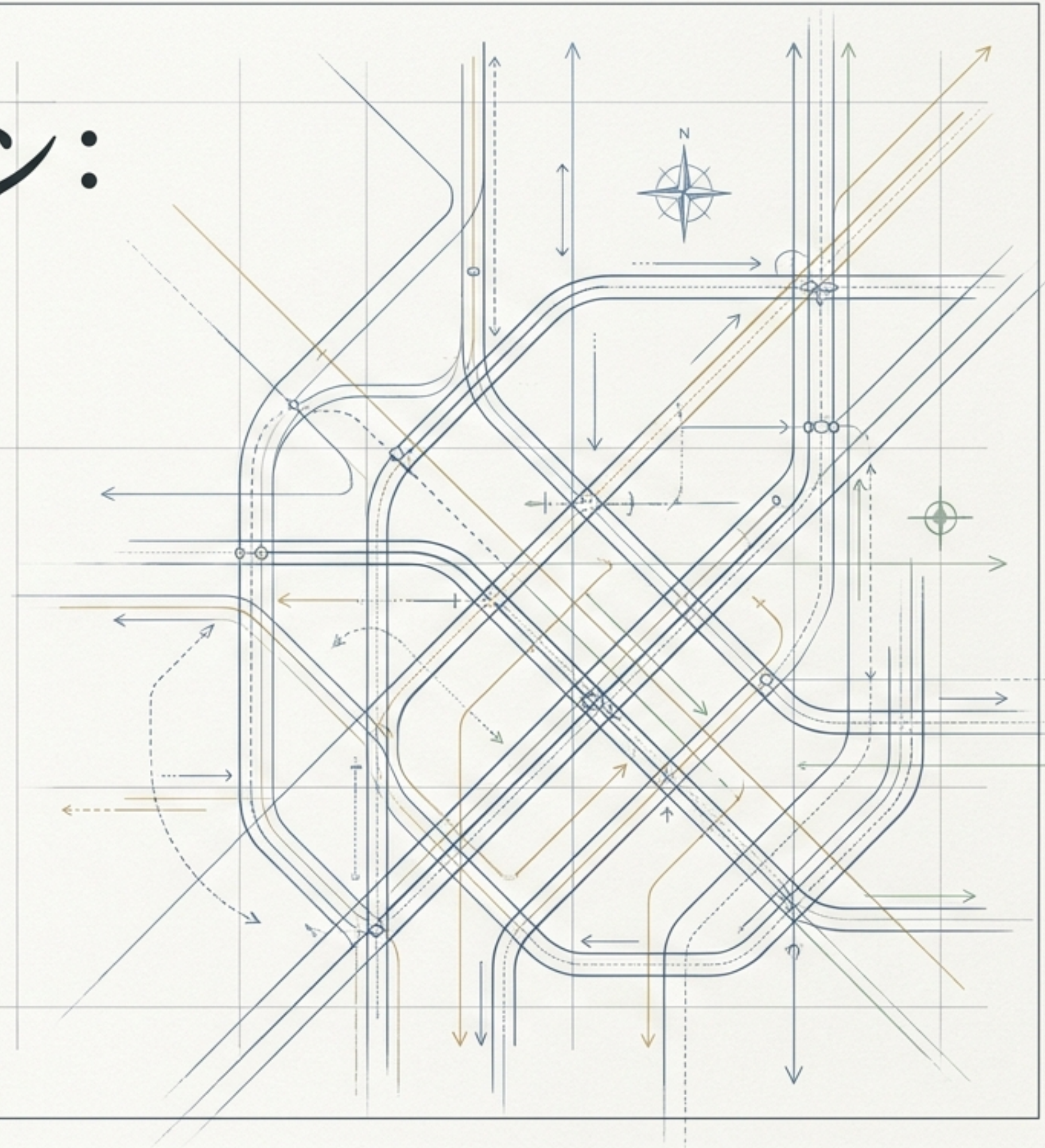


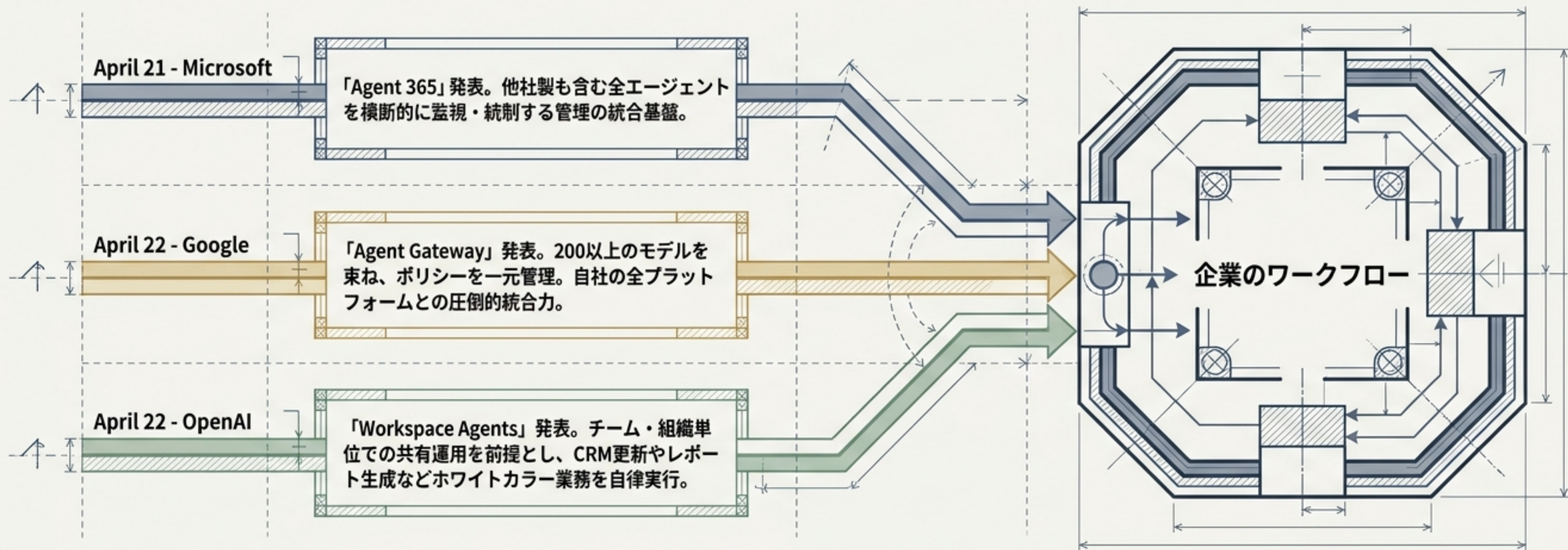
# AIコントロールプレーン： 48時間で変わった 企業AIの主戦場

データから「制御」へ。  
自律型エージェント時代における  
究極の覇権争いと、日本企業が取るべき  
生存戦略。

2024年5月 | 戦略リサーチインスティテュート



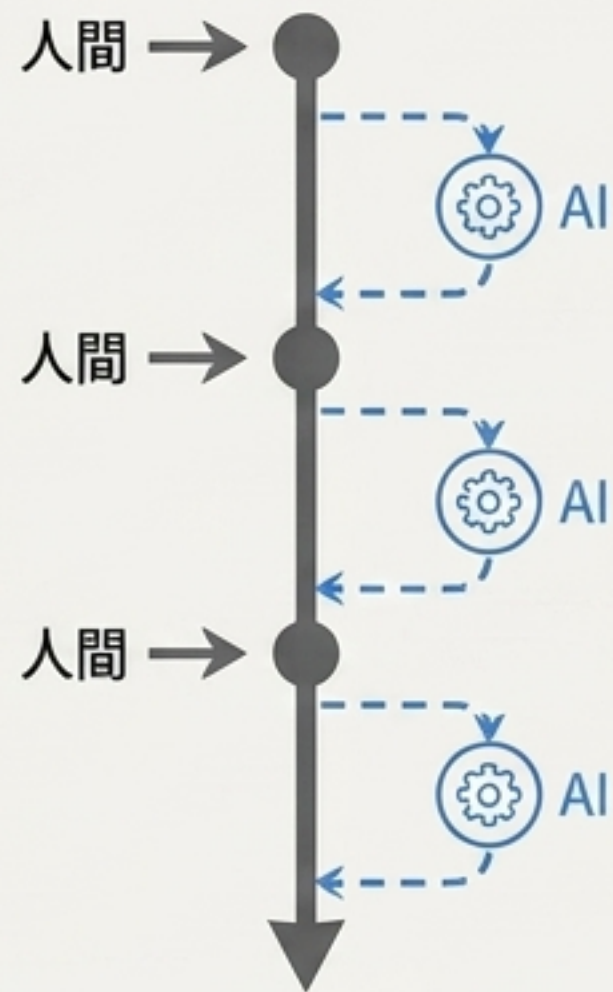
## 48時間のカタリスト：主戦場は「モデルの性能」から「業務の支配」へ



これらは単なる新機能の発表ではない。世界のビッグテックが同時多発的に「自律型AIエージェントの基盤（プラットフォーム）」へ一斉に攻め込んだ歴史的転換点である。

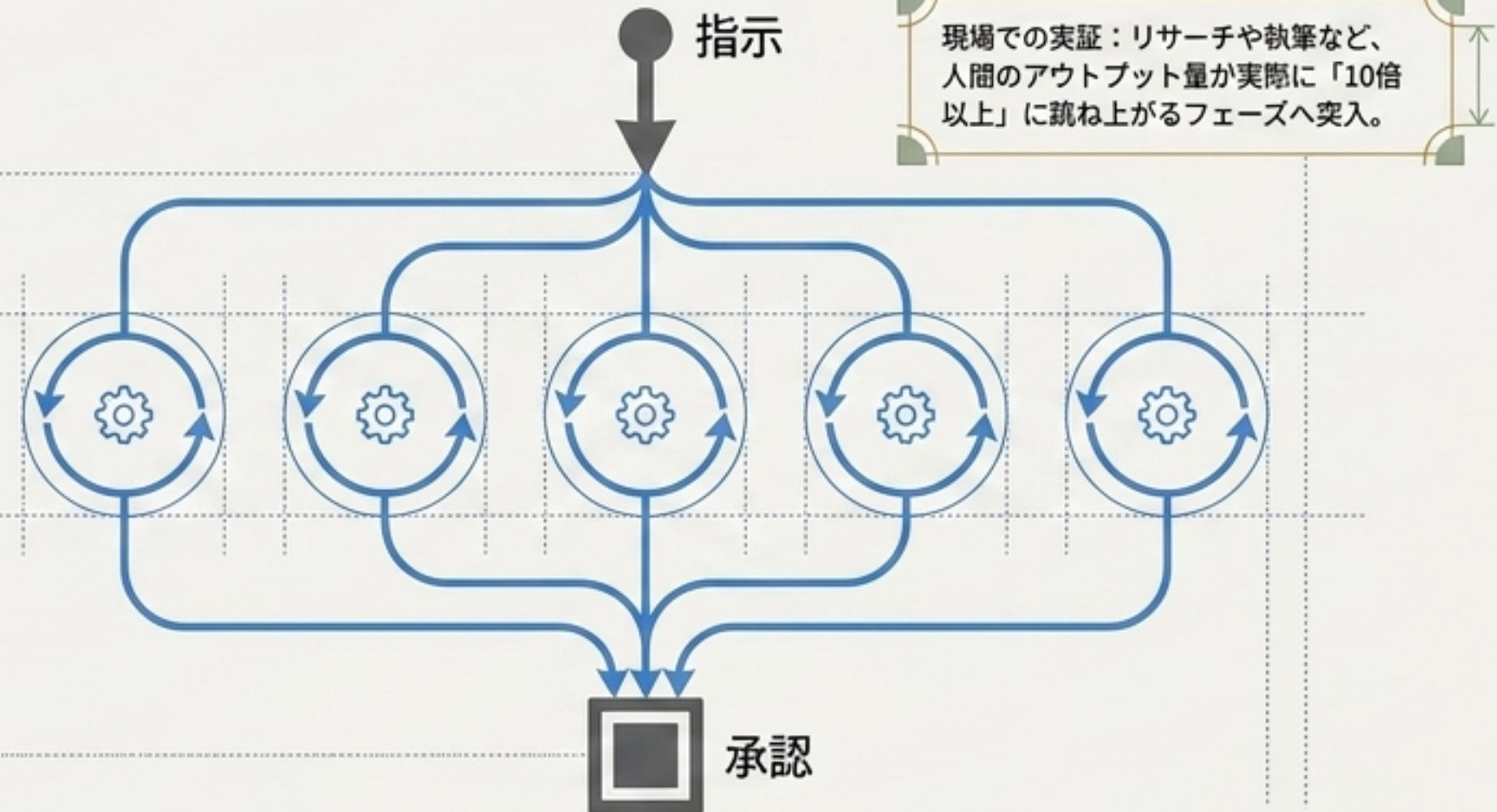
# パラダイムシフト：「ツール」から「自律型エージェント」へ

Tool Era / Productivity: 1x



人間が主役、AIがサポート。  
人間がコードや文章を書き、  
AIに都度助けを求める。

Agent Era / Productivity: 10x-100x

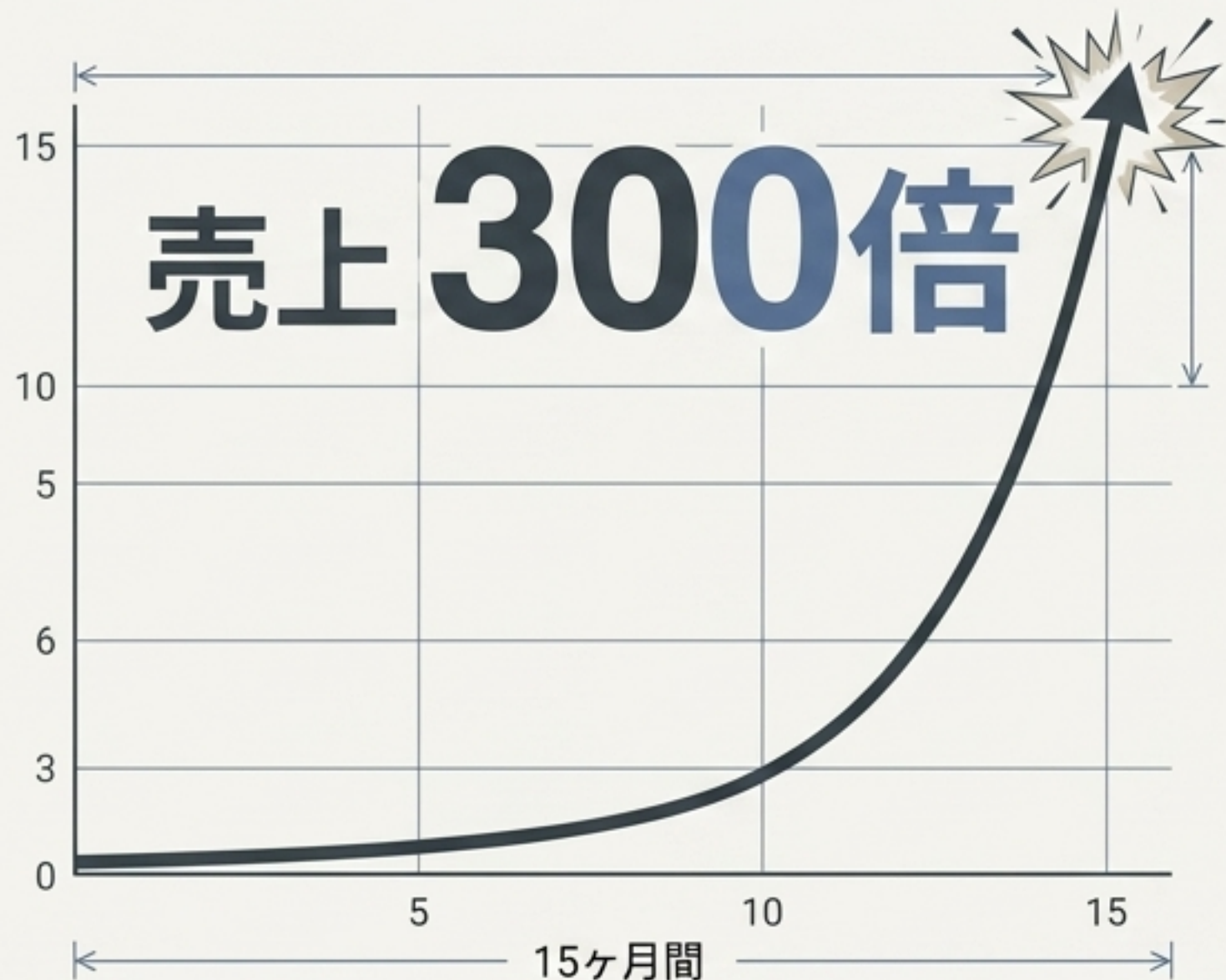


現場での実証：リサーチや執筆など、  
人間のアウトプット量が実際に「10倍  
以上」に跳ね上がるフェーズへ突入。

人間が指示を出し、AIが自律思考・実行。  
複数のエージェントが並列で業務をこなし、人間は  
最終チェックのみを行う。

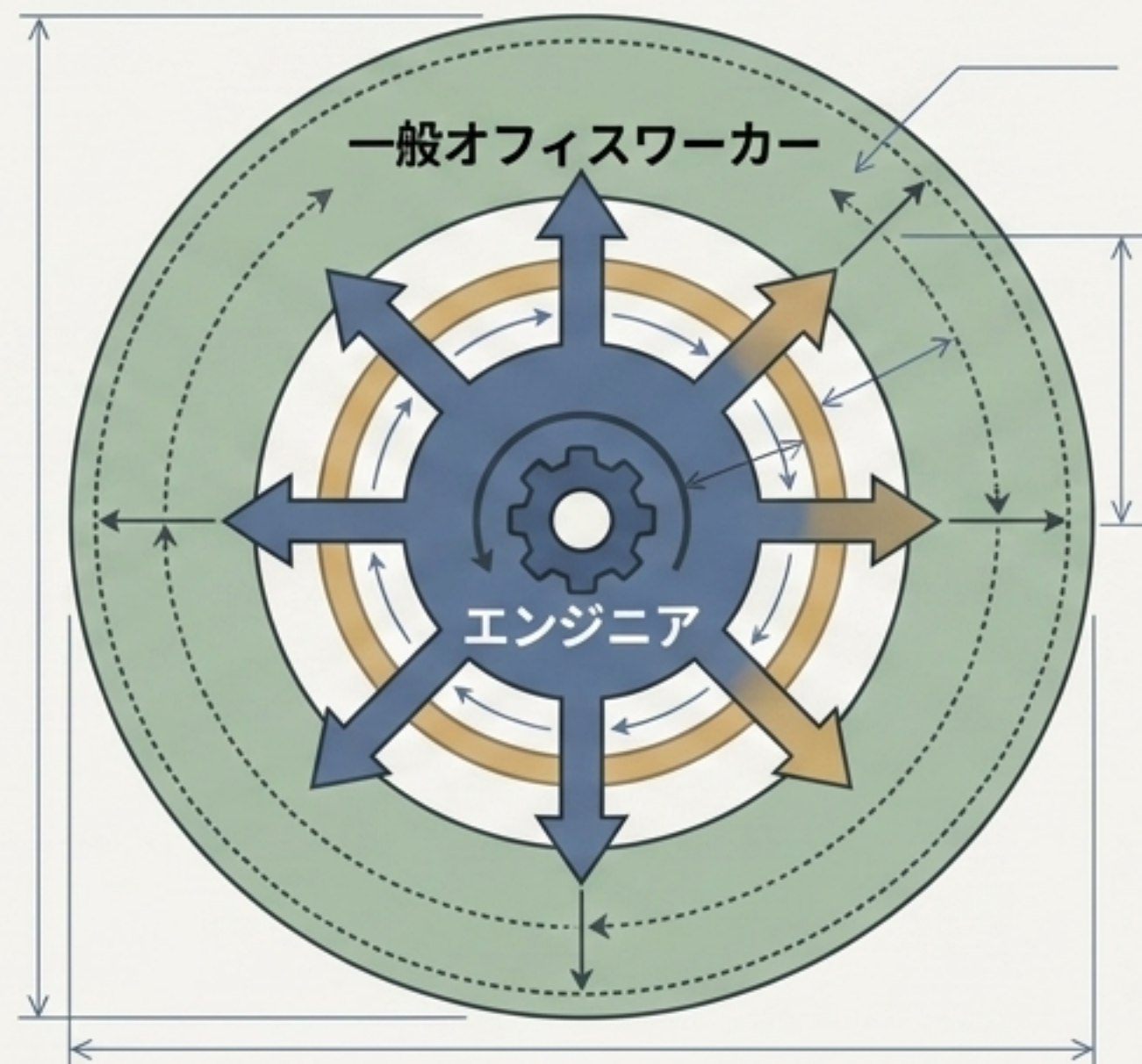
# 実証された破壊力：業績爆上がりとホワイトカラーへの波及

The Financial Proof



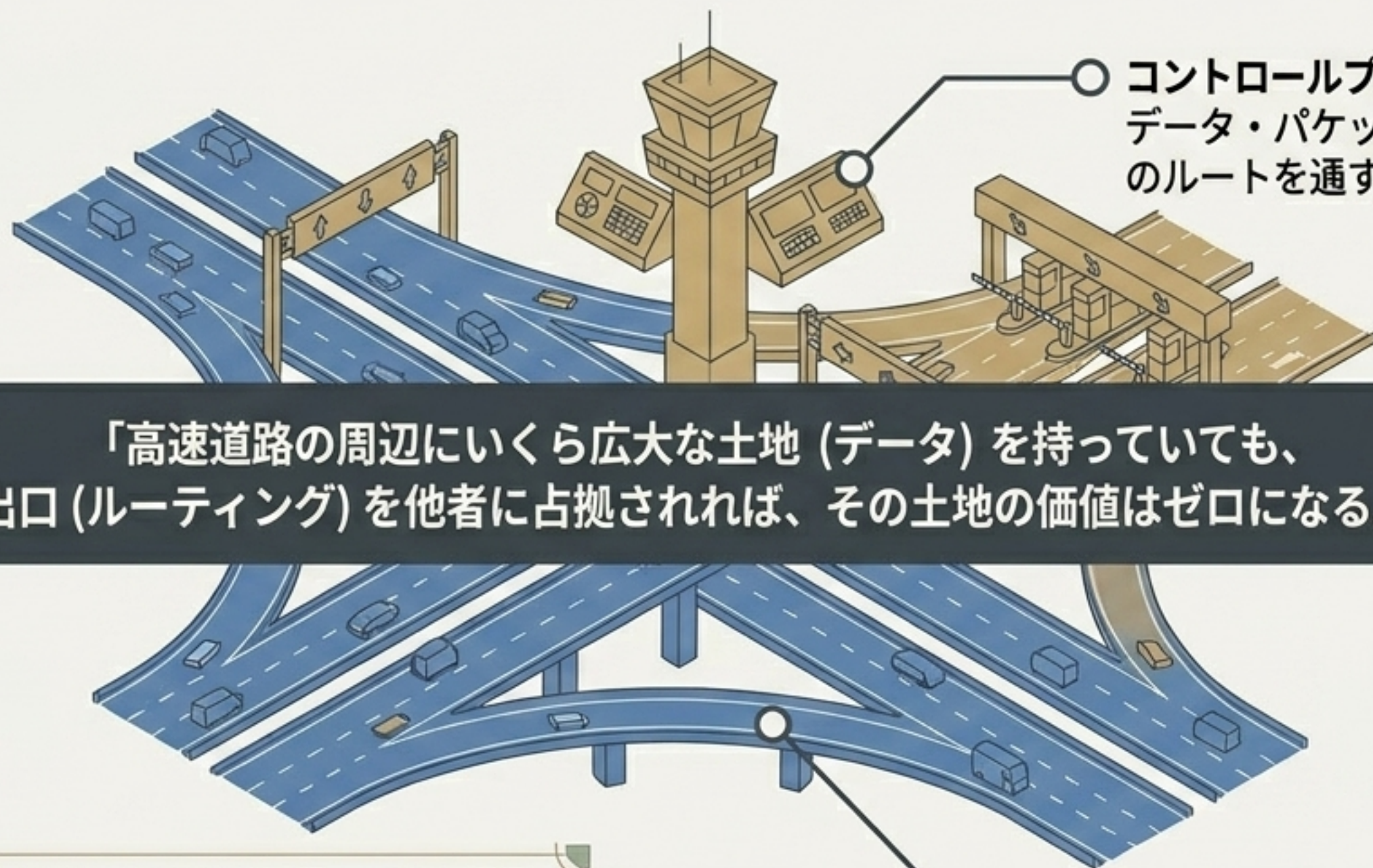
Anthropicの驚異的な成長。エンジニア向け自律型エージェント枠組み (Claude Code) の大成功が、劇的なスケールを証明した。

The Operational Expansion



エンジニア専用の領域から、一般のオフィスワーカーへ。Claude Co-workによるスマートフォンからの自律エージェントへの指示 (ディスパッチ) や、並列実行基盤がすでに実用化。

# コア・コンセプト：データではなく「コントロールプレーン」を握れ



○ コントロールプレーン (制御塔・料金所) :  
データ・パケットをどこに流すか、ど  
のルートを通すかを定める「制御層」。

「高速道路の周辺にいくら広大な土地 (データ) を持っていて、  
出口 (ルーティング) を他者に占拠されれば、その土地の価値はゼロになる。」

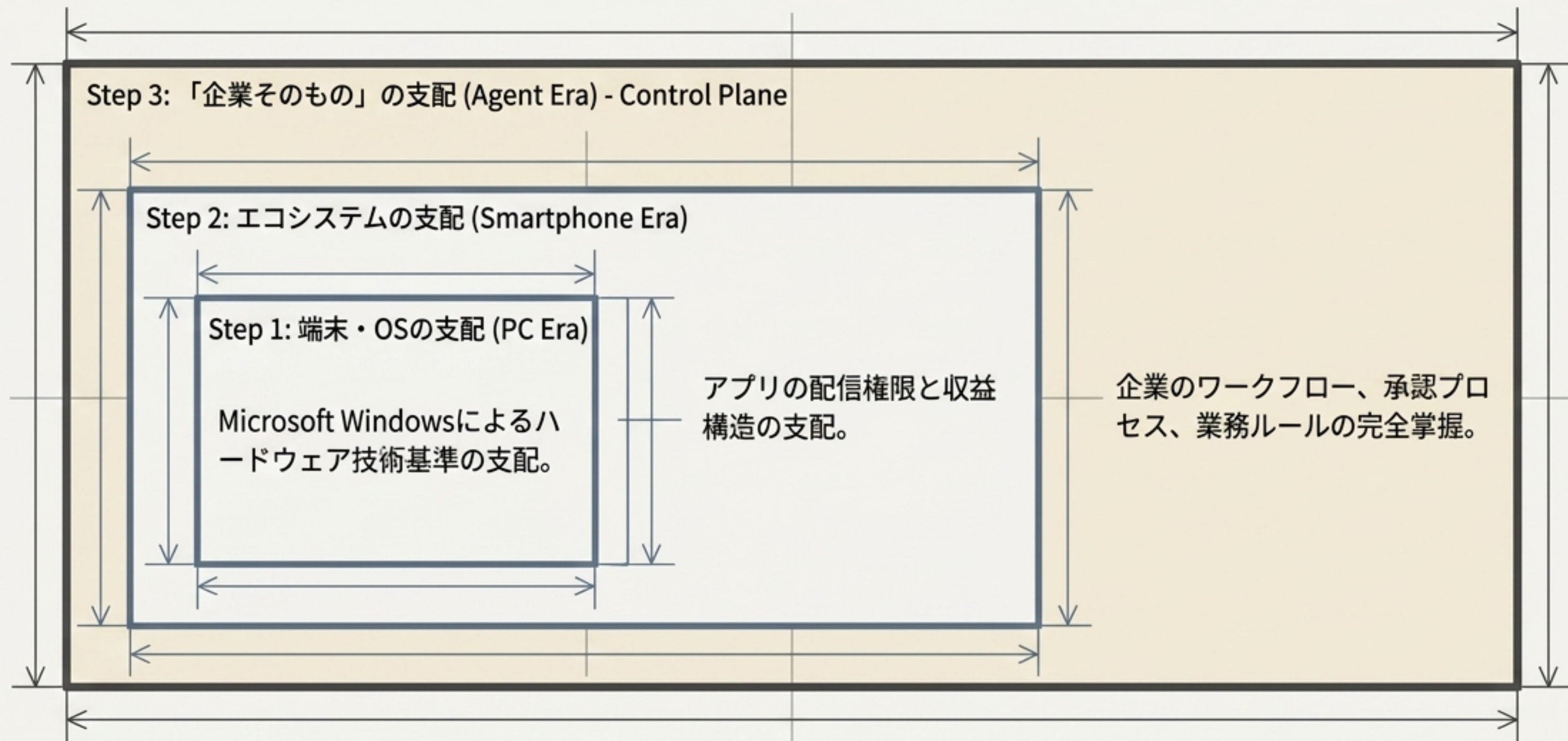
どの業務を、どのAIに割り当て、どう承認し、どう記録  
するか。この「企業内内のワークフローのルール」そ  
のものを定義する層こそが、次なる覇権の鍵を握る。

○ データプレーン (道路・車) :  
データそのものやLLM。  
これだけでは価値を生み出せない。

# The 5 Kings of AI : 覇権を争うプレイヤーの戦略マトリクス

企業 (Player)	プロダクト (Platform)	強みの源泉 (Core Strength)	戦略スタンス (Strategy/Stance)
Microsoft	Agent 365	エンタープライズの深部への浸透。M365との統合	他社製エージェントも包含し管理層を狙う (囲い込み志向)
Google	Agent Gateway	圧倒的な自社データ、半導体からアプリまでの完全統合	統合の滑らかさを武器にエコシステム全体を支配
OpenAI	Workspace Agents	ChatGPTによる巨大なユーザーベースとブランド力	直感的ですぐに使える利便性で面を取る
Anthropic	Claude Co-work	ローカルファイル操作やデスクトップへの完全アクセス	強力な機能でワークフローを囲い込む
Nvidia	NIM / Open Dev	ハードウェア・モデルに依存しないインフラ構築力	オープン戦略。エコシステム全体を広げGPU需要を最大化

# 経営層への警告：過去最大の「究極の囲い込み」が迫る



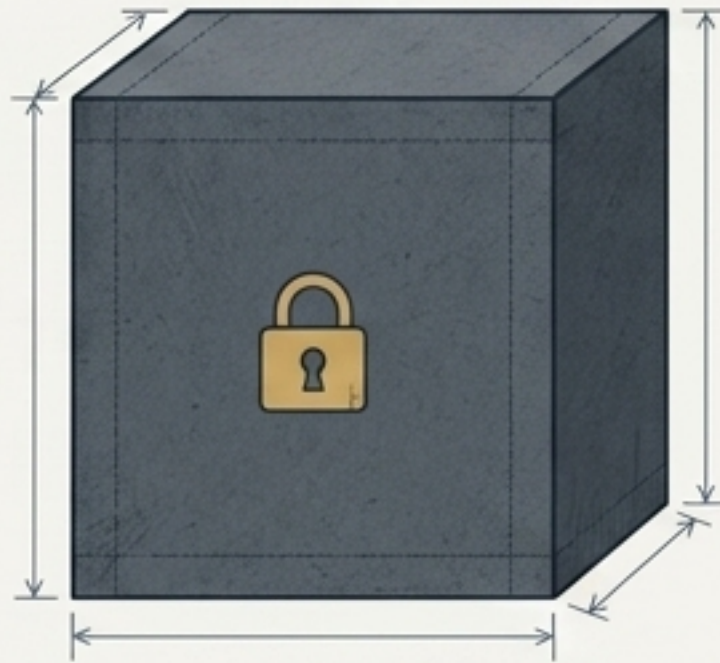
ソフトウェアやツールの囲い込みではない。コントロールプレーンをベンダーに明け渡すことは、「自社の仕事の進め方 (DNA)」そのものをベンダーの手のひらに委ねることを意味する。

企業データ

## 生存戦略：コントロールプレーンの主権をいかに守るか

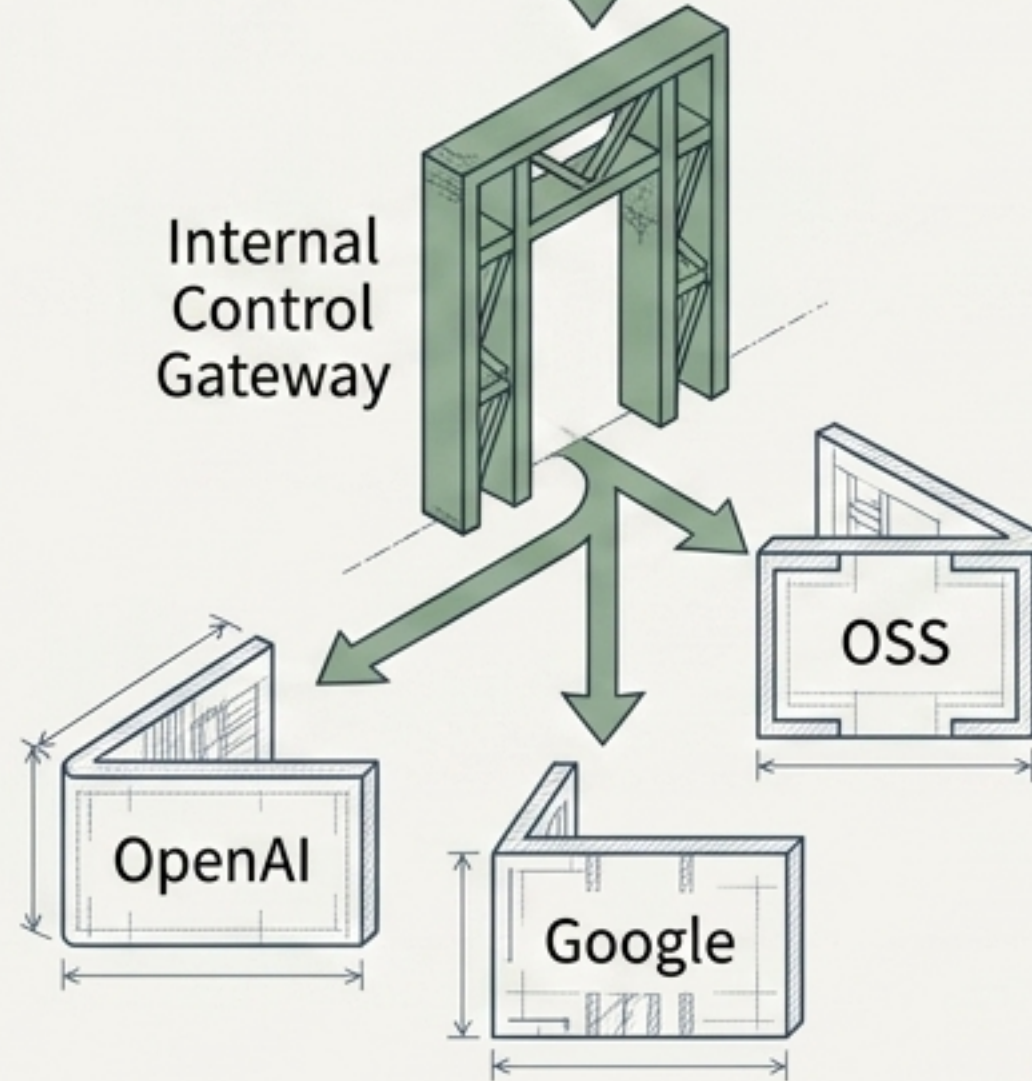
リスク：依存

Vendor  
Black Box



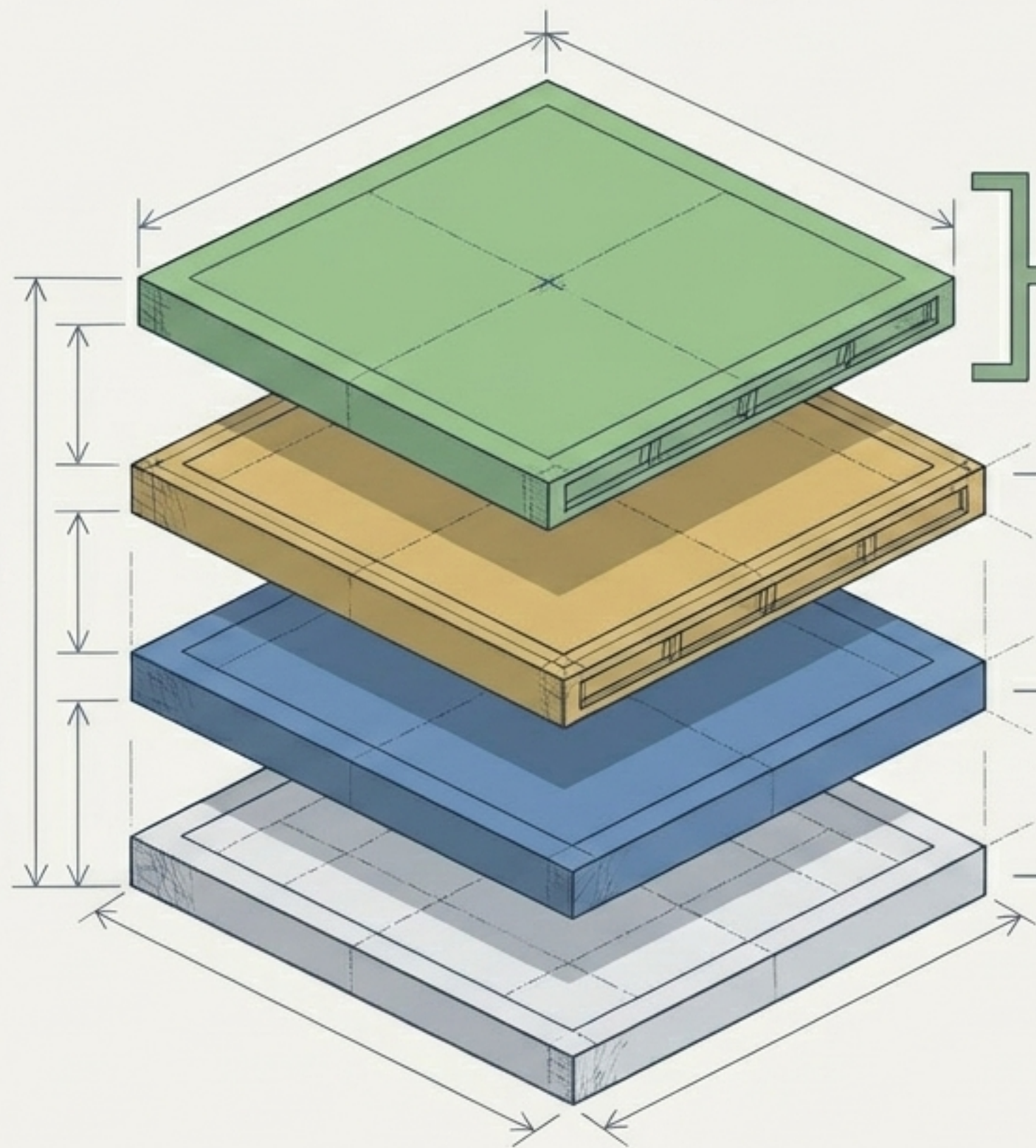
承認フローやアクセス権限のルールを、特定ベンダーのUI内に直接書き込んでしまう。  
= 移行不可能なロックイン。

防衛：独立



1. **ルールの内部保持:**  
ポリシーや権限定義を自社のドキュメント・システムとして独立管理する。
2. **オープンソースの活用:**  
OSSの管理レイヤーを活用し、特定企業への過度な依存を防ぐ。
3. **マルチモデル前提:** 単一のLLMに頼らず、複数ベンダーのモデルを基礎とできる柔軟な層を構築する。

# 未来のエンタープライズAI・アーキテクチャ（4層構造）



人間とAIの協業  
マインドセット

コントロールプレーン

今回の主戦場。AIエージェントのルーティング、権限、ルールの統制層。

企業データ

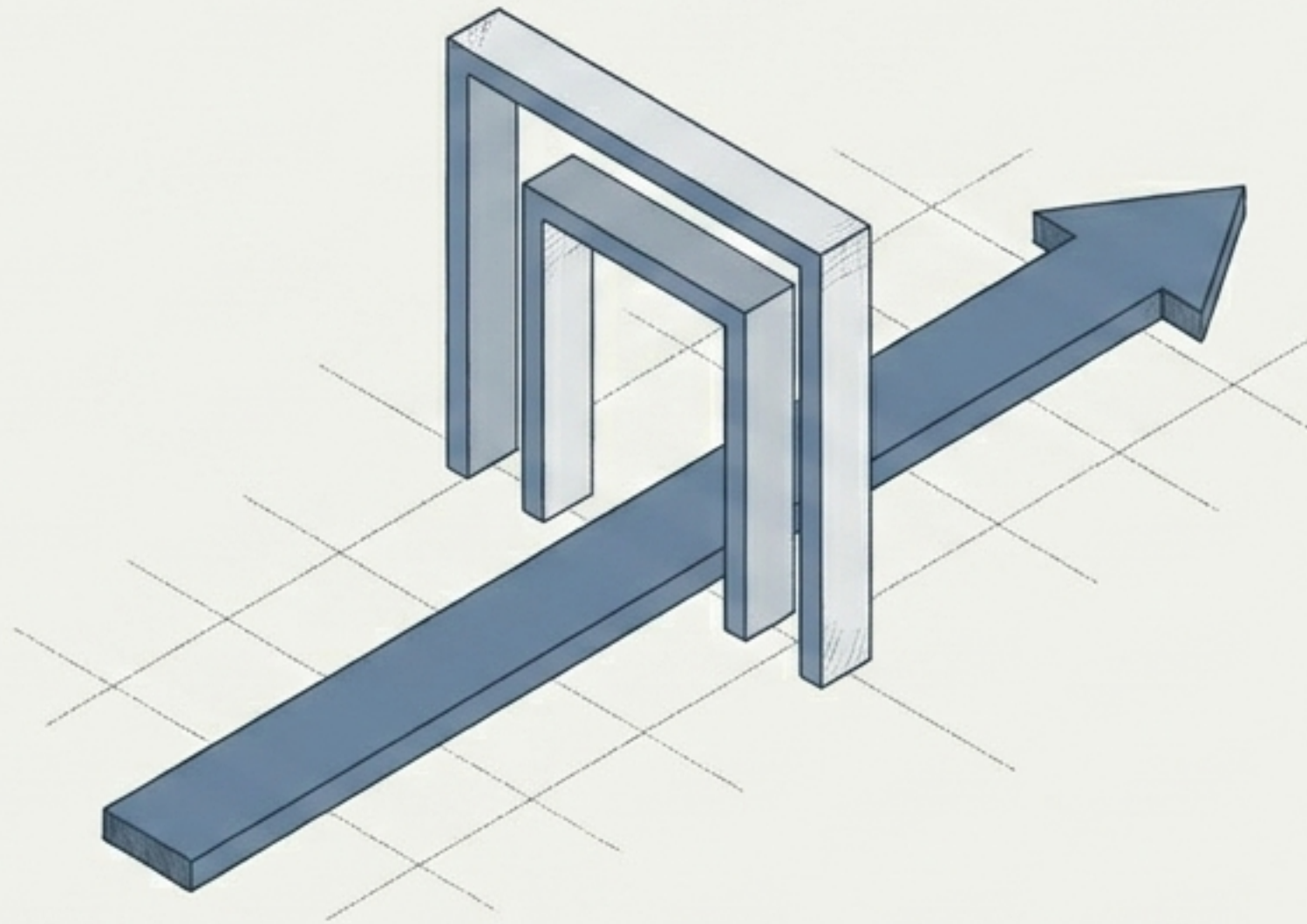
自社独自のインサイトとコンテキスト。

基盤モデル (LLMs)

OpenAI, Google, Anthropic等の汎用知能。急速にコモディティ化が進行。

テクノロジーが下層を解決した今、最大の障壁は「人の心」。AIを拒絶せず、自律型エージェントと共創する組織文化とマインドセットの変革こそが、企業の最終的な競争力となる。

# 結論：技術の進化は、経営の決断を待たない。



- AIは「支援ツール」から「自律実行の基盤」へ、わずか数日で完全に移行した。
- ベンダーが狙っているのは、貴社のデータではなく「業務のコントロール権」である。
- 今すぐ、自社のワークフローの主権（コントロールプレーン）をどこに置くか、戦略的決断を下さなければならない。

「システムの導入」ではない。「企業のOS」を再定義せよ。